

令和3年度 事業報告書

(自令和3年4月1日～至令和4年3月31日)

公益財団法人 全国学校農場協会

〈概 要〉

令和3年度は、5月7日に第1回理事会を開催することができ、コロナ感染の先行きに多少の不透明観を残しながらも本事業年度は通年の計画通りに事業運営ができるものと期待しての出立つであった。しかし、コロナ感染の状況は期待に反して依然として変わらず、事業や活動の度に感染予防対応に追われた1年であったが、実施したそれぞれの事業・活動の目的、目標は十分とは行かないまでも達成することができた。

I 農業教育に関する各種事業活動の実施報告

1、農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業・・・(公I事業)

1) 教育行政・農政・学術・学際的講演及び研究発表による農業教育を推進する事業

※原則一般公開：内容等の詳細は当協会ホームページにて告知

(1) 講演事業

農業教育に携わる教職員の資質の向上は基より、広く国民に農業及び農業教育の重要性と理解の深化を図るため、最新の農業技術や研究の成果、農業現場の動向等を内容とした以下の講演事業を実施した。

『全国大会講演』・・・全国高等学校農場協会と共催

講演1、「高等学校教育の現状と課題について」

講師 文部科学省初等中等教育局

参事官（高等学校担当） 安彦 広斉 先生

講演2、「高大連携を通じたスマート農業技術者の育成」

ドローンによる作物モニタリングの可能性ー

講師 東京農業大学生産環境工学科

教授 岡澤 宏 先生

『農業教育研究協議会講演』・・・全国高等学校農場協会と共催

講演1、「高等学校教育の現状と課題について」

講師 文部科学省初等中等教育局

参事官（高等学校担当） 田中 義泰 先生

講演2、「新規就農対策について」

講師 農林水産省経営局就農・女性課

課長 平山潤一郎 先生

講演3、「農業を強くするブランドづくり」

講師 静岡県立大学経営情報学部教授・学長補佐・

地域経営研究センター長

博士(農業経済学) 岩崎 邦彦 先生

『各支部大会講演』・・・全国高等学校農場協会各支部と共催

全国8支部の全てにおいて、支部大会の中で「講演会」を計画していたが、コロナ禍における感染拡大防止の観点から全支部大会が開催中止をせざるを得なくなり、「講演会」を実施することができなかった。

(2) 調査・研究的事業の推進

農業教員の調査・研究活動や研修活動を奨励し、農業教育の質的向上を図ると共に指導方法を改善し、学習成果を高める実際的な指導力を身に付けることができる事業を推進する。

『全国大会研究発表・研究協議』・・・全国高等学校農場協会と共催

発表1、「次世代を担う地域産業人育成に向けた取組」

～GAP, SFPによる農業教育の実践～

北海道岩見沢農業高等学校 教諭 石田 康幸

発表2、「地域・農業のリーダー育成を目指した教育活動」

新潟県立加茂農林高等学校 教諭 松井 智之

発表3、「鳥取県における農業後継者育成の取り組みについて」

～スーパー農林水産業士育成制度の実践報告～

鳥取県立倉吉農業高等学校 主幹教諭 秋山 勝正

『各支部大会研究発表・研究協議』・・・全国高等学校農場協会と共催

全国8支部全てにおいて、各支部で設定した3～8テーマについて単年度又は数年度に亘って調査・研究を行い、その成果を支部大会で設定された分科会で発表するとともに研究協議のデーターとして供してきた。しかし、令和3年度はコロナ禍における感染拡大の防止の観点から全支部大会が開催中止となった為、各支部における研究発表および研究協議は全て中止せざるを得なかった。

『農業教育研究協議会研究局研究口頭発表・研究協議』

【園芸部会】

・「緊急事態時や自然災害等の休講時における

農業（園芸）の遠隔（リモート）教育」について

埼玉県立羽生実業高等学校 教諭 長島 肇

茨城県立石岡第一高等学校 教諭 菊池 明美

東京都立農産高等学校 教諭 片山南美子

山梨県立農林高等学校 教諭 島津 文彦

【農業土木部会】

・農業土木系学科における課題や諸問題に

対する取り組みに関する調査研究

栃木県立宇都宮白楊高等学校 教諭 菅井 誠司

群馬県立藤岡北高等学校 教諭 新井 健司

茨城県立真壁高等学校	教諭	稲毛田真仁
静岡県立静岡農業高等学校	教諭	大岡 真吾

『研究局教育課程専門部会研究誌上発表』

【流通部会】

- ・科目「農業情報処理」の取り組みと

プログラミングの取り組みについてⅡ

茨城県立水戸農業高等学校	教諭	今井 芳彦
千葉県立流山高等学校	教諭	吉田 純明
東京都立青梅総合高等学校	教諭	中村 洋介
埼玉県立秩父農工科学高等学校	教諭	春田知恵美

【栽培系学科部会】

- ・令和3年度ICT技術及び機器における各校の

導入・活用状況と課題について

埼玉県立いずみ高等学校	教諭	池田 裕明
群馬県立伊勢崎興陽高等学校	教諭	松村 哲夫
栃木県立矢板高等学校	教諭	林 賢一
静岡県立磐田農業高等学校	教諭	望月 剛康

【農業機械部会】

- ・各学校で使用している農業機械及び

一般車両の調査について

千葉県立下総高等学校	教諭	荒木田光生
神奈川県立吉田島高等学校	教諭	石塚 洋平
埼玉県立杉戸農業高等学校	教諭	金子 ゆき
群馬県立勢多農林高等学校	教諭	深代 郷史

【造園部会】

- ・造園関連学科におけるICT活用および

資格取得の取り組みについて

山梨県立農林高等学校	教諭	塩野 哲男
栃木県立栃木農業高等学校	教諭	篠崎 亮介
群馬県立藤岡北高等学校	教諭	田中 雅紀
静岡県立田方農業高等学校	教諭	渡邊 幸伸

【生活・ヒューマン部会】

- ・「生物活用」「グリーンライフ」の実施状況の調査

～地域連携事業について～

神奈川県立三浦初声高等学校	教諭	小泉 幸太
茨城県立水戸農業高等学校	教諭	照沼 功

東京都立農芸高等学校 教諭 宮田 智恵
 千葉県立多古高等学校 教諭 伊藤 義泰

【学校特色化部会】

- ・地域連携活動における問題点・課題について

千葉県立清水高等学校 教諭 横山 和穂
 栃木県立真岡北陵高等学校 教諭 粕谷晴之輔
 東京都立農業高等学校 教諭 佐藤 武仁
 静岡県立下田高等学校南伊豆分校 教諭 肥田 恒次

『本部研究局継続調査』

- ・令和3年度 大学推薦入学に関する調査

全国47都道府県377校の農業高校を対象に令和2年度に各校から推薦入学制度を利用して大学へ入学した生徒の実態調査を行った。

- ・教育課程に関するアンケート調査

全国47都道府県377校を対象に各校の設置学科、総合学科の系列数を調査、各設置学科及び設置系列での農業科目の履修状況の調査を行った。

- ・「農業系高校における特色ある取組み」に関する調査

全国の農業系高校における特色ある取組や活動を調査し、その実態を資料として集約した。

以上、調査・研究事業の内容の詳細は令和3年度 第59号研究集録に集約されているので参考また活用されたい

2) 学術及び科学技術の推進を目的とする事業

農業教育の質的向上と農業教育に携わる教職員の実験実習技術並びに指導力の向上を図ることを目的として、以下全国6地区（教員免許状更新講習を含む地区は4地区）で実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため九州地区以外の5地区は中止をせざるを得なかった。

(1) 農業実験実習講習及び教員免許状更新講習

地区	科目	開講会場	免許更新	
・北海道地区	農業と環境	帯広畜産大学	あり	中止
	期間：	8月2日(月)～8月6日(金)		
	講師：	金山 紀久(教授) 佐藤 禎稔(教授) 木下林太郎(助教) 木村 賢人(准教)		
・東北地区	食品化学 食品製造 微生物利用	弘前大学	あり	中止
	期間：	8月16日(月)～8月20日(金)		
	講師：	岩井 邦久(教授) 石塚 哉史(教授)		

- 西塚 誠 (准教) 津田 治敏 (准教)
樋口 智之 (准教) 前多 隼人 (准教)
君塚 道史 (准教) 成田 拓未 (准教)
- ・ 関東地区 農業と環境 茨城大学 あり 中止
期間： 8月23日(月)～8月27日(金)
講師： 小松崎将一 (教授) 井上 栄一 (教授) ・
安江 健 (教授) 白岩 雅和 (教授)
小針 大助 (准教) 鎗田 孝 (准教)
坂上 伸生 (准教) 内田 晋 (准教)
- ・ 近東地区 農業と環境 岐阜大学 あり 中止
期間： 8月23日(月)～8月27日(金)
講師： 光永 徹 (教授) 岩橋 均 (教授)
向井 譲 (教授) 山内 恒生 (助教)
片畑伸一郎 (助教) 中村 浩平 (准教)
加藤 正吾 (准教) 椎名 貴彦 (准教)
- ・ 中国地区 農業と環境 島根大学 あり 中止
期間： 8月16日(月)～8月20日(金)
講師： 松本 真悟 (教授) 浅尾 俊樹 (教授)
松本 敏一 (教授) 門脇 正行 (准教)
田中 秀幸 (准教) 城 惣吉 (助教)
渋谷 知暉
- ・ 九州地区 農業と環境 九州沖縄農業研究センター なし 実施
期間： 8月2日(月)～8月6日(金)
受講者： 9名
講師： 農業研究センター研究員・コーディネーター等14名
山崎 篤 大和 陽一 曾根 一純
奥島 里美 日高 功太 守行 正吾
壇 和弘 渡辺 慎一 藤田 敏郎
三角 将洋 高山 智光 中井 勇介
松尾健太郎 後藤 光男

コロナ禍の中での開講で受講者数は少数であったが、受講者からは、講習内容が広い分野を対象にした技術研修であり、日常の実習実験指導に直結した即践的な内容の研修で受講して良かったと大変好評であった。

(2) 免許法(実習助手単位)認定講習

本事業年度も昨年度と同様に当公益財団法人から、東京農業大学と北海道

酪農学園大学の2大学へ認定講習の開講を要請し快諾を得た。その旨を文部科学省へ伝えると共に標記免許法認定講習を文部科学省と開講大学との委嘱事業として実施して頂くようお願いし開講2大学に準備を進めて戴いていたところであった。

しかし、コロナ感染もこれまで以上に感染力の強い新しい変異株も加わり、感染状況の先行きが極めて不透明であり、現状での免許法認定講習開講は無理であるとの申し出が開講2大学からあった。関係者間でいろいろ協議・検討した結果、コロナ感染拡大防止の観点から今事業年度の実施は中止とすることに決定した。

(3) 農業教育功労者表彰状及び感謝状の贈呈等褒賞事業の実施

永年に亘って農業教育に携わり、農業教育の振興と普及に貢献し功績のあった者を表彰規定に基づいて表彰した。

【令和3年度農業教育功労者表彰審査結果】・・・(数値は人数)

支 部	候補者	合格者	不合格者	審議対象者
北海道	7	7	0	0
東 北	19	19	0	0
関 東	37	37	0	0
北信越	15	15	0	0
近 東	27	26	1(感謝状)	1
中 国	20	17	3(感謝状)	3
四 国	8	7	1	1
九 州	36	34	2(感謝状)	2
合計	169	162	7	7

・令和3年度農業教育功労者審査委員会

開催日時：令和3年6月24日(木)＝9：00～16：30

審査委員：橋本 倉司 金子 淳一 矢田部正弘 戸代谷泰一
 神谷 晶平 佐藤 敏之 中村 洋介 鈴木 隆
 友光 俊一 須賀 秀次 日置 司明

(4) 和牛甲子園の連携開催の実施

JA全国農業協同組合連合会と連携し、第5回和牛甲子園を開催し、入賞校には表彰状と記念品を贈呈し、今後の肥育牛の生産に期待と奨励を支援した。

その概要と審査結果は以下の通りである。

①開催期日：令和4年1月21日(金)

②開催会場：体験発表＝アグベンチャーラボ(オンラインによる発表)

：枝肉共励会＝東京都中央卸市場食肉市場(上場・セリ会場)

③参加校・出品頭数：参加35校、出品頭数50頭

④審査結果

- ・総合評価部門 : 最優秀賞 (1校) 愛知県立渥美農業高等学校
 - ・取組評価部門 : 優秀賞 (2校) 愛知県立渥美農業高等学校
鹿児島県立市来農芸高等学校
 - : 優良校 {3校} 鹿児島県立鹿屋農業高等学校
鹿児島県立鶴翔高等学校
福島県立会津農林高等学校
 - : 審査員特別賞 岡山県立瀬戸南高等学校
 - : 高校牛児特別賞 宮城県農業高等学校
 - ・枝肉評価部門 : 最優秀賞 (1頭) 鹿児島県立曾於高等学校
 - : 優秀賞 (2頭) 岐阜県立大垣養老高等学校
愛知県立渥美農業高等学校
 - : 優良賞 (3頭) 栃木県立栃木農業高等学校
栃木県立那須拓陽高等学校
鹿児島県立鹿屋農業高等学校
 - : 審査員特別賞 栃木県立宇都宮白楊高等学校
- ・体験発表資料は、事前に事務局へ送付し、審査員の審査を受ける。
 - ・総合評価部門は、取組評価部門と枝肉評価部門の合算による総合評価。
 - ・優秀賞、優良賞に序列は無く、それぞれ体験発表順、枝肉番号順に記載した。

2、農業教育・環境教育等に関するフォーラム、シンポジウムの開催事業

本事業年度は、コロナ禍中において中止を余儀なくされた事業もあったが感染拡大防止対応に最大の留意を払いながら、下記の当該事業を実施した

1) 第8回全国 農業女子フォーラム in 福岡

- ・主催：公益財団法人全国学校農場協会、全国農業高等学校長協会九州支部
- ・共催：全国高等学校農場協会九州支部、九州学校農業クラブ連盟、毎日新聞社

①開催日時：令和3年10月22日（金）12：30～16：45

②開催会場：アクロス福岡（4F 国際会議場）、ソラリアプラザ

③参加者：会場参加200名、web参加200名、web視聴全国農業高250校
農業高校生、農業大学生、農業女子プロジェクト会員、地域住人、

④内容

(ア) 主催者挨拶、祝辞他

福岡農業高校々長、九州地区農業校長会部会長、(公財)全国学校農場協会理事長、文部科学省、農林水産省、福岡県知事、福岡県教育長他

(イ) 実践発表

農業経営者、女性就農者、農業高校生他

(ウ) パネルディスカッション

農業高校生 9 名、農業大学校生 1 名、専攻科生 1 名 農業者 3 名
教員 1 名 計 15 名

(エ) 記念講演

演 題：「農業を志す生徒への応援メッセージ」

講 師：(株) 愛しとーと社長 岩本 初枝 先生

(オ) 閉会式・表彰式

ポス多一、スローガン、川柳の表彰状授与

2) 実践総合農学会地方大会を当公益財団法人と連携して共催開催で実施

実践総合農学会が、地方大会と称して毎年実施している地方での学会発表会を当公益財団と連携・共催して下記の概要で実施した。

この事業の目的は学会発表の中に開催地域の当公益財団法人会員校の農業高校生の研究発表を加え、研究集団の中での生徒の出番や活躍の機会を体験させ自らの将来を考える参考にさせることを目的としている事業である。

・主催：実践総合農学会

・共催：公益財団法人全国学校農場協会

①開催日時：令和 3 年 11 月 13 日(土) 9:00~17:00

②開催会場：東京農業大学厚木キャンパス・講義棟 2F トリニティホール

〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737 Tel 046-270-6220

③参加者：学会々員、学会準会員、大学・研究・教育関係者、協力機関・協力団体関係者、地域高校生、地域就農者、一般市民他

④内 容

(ア) 主催者挨拶・祝 辞他

実践総合農学会々長、東京農業大学々長、JA厚木組合長他

(イ) 基調講演

演 題：「地域の担い手育成について」

講 師：NPO法人 農業情報総合研究所 所長 植村 春香 先生

(ウ) シンポジウム

テーマ：「未来の地域の担い手を育てる」

座 長：東京農業大学 教授 小池 安比古

(エ) コメンテータ

NPO法人農業情報総合研究所 所長 植村 春香 先生

(オ) 報告・発表

・第1報告「田んぼの学校の取り組み」

塩田由紀子：福島県矢吹町役場商工推進課地域活性係

・第2報告「JA あつぎ夢未（ゆめみ）kids スクールの取り組み」

井上 美晴：JA あつぎ組織文化部生活ふれあい課
・第3報告「ひまわり交流事業の取り組み」
ー小さな商店街の小さな友達づくりー
戸津 信義：相武台南口商店会サークル“ひまわりのタネ”
『あすなる大学』

- (カ) 地元農業高校生による研究成果発表（口頭及びポスター発表）
発表1「畜産に対する理解醸成に向けた相原高校の取り組み」
神奈川県立相原高等学校(畜産部 牛プロジェクト)
発表2「みつ症“浜なし”をジャムで復活」
ー廃棄する梨を収益源にー
神奈川県立中央農業高等学校（食品加工専門研究部）
発表3「アグロフォレストリーで目指す
中山間地域の持続的な生産活動」
神奈川県立吉田島高等学校（森林系科目選択生）

- (キ) パネルディスカッション
基調講演者と報告者及び発表高校生によるディスカッション
テーマ：「地域の活性化を目指した地域農業の創生」

(ク) 座 談 会

〈出席者〉

- ・加藤 春幸：有限会社 座間洋ランセンター専務
- ・小笠原直樹：神奈川県立相原高等学校教諭
- ・吉川 貴博：(株) 湘南きゅうり園 生産者

地域の担い手育成を主題として、出席者がそれぞれの立場からの活発な意見の交換がなされ、盛り上がった座談会であったとの評価であった。

3) オープンディスカッションの実施・・・中止

食と農と健康をキーワードに地域住民など広く一般の人々を対象とした自由参加による「柏の葉オープンディスカッション」を、NPO法人農業高校支援機構との共催で実施する計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大が止まらず感染拡大防止の観点から本年度も中止せざるを得なかった。

3、地域文化（芸術・芸能・文芸）振興を推進する事業

全国の農業高等学校に学ぶ生徒を対象に、自らが生活している地域の文化や習慣、歴史や伝統・芸能等へ興味や関心を持ち、それらを通して今一度自分と地域との関わりを考え、地域愛や郷土愛を醸成するきっかけになることを期待して本事業を推進してきた。

本年度も下記の2事業を実施したが、これまでと同様に地域の休耕田の有効転用

や放置竹林の地域ブランド竹製品製作林転用への提案などエッセイやフォトを通して地域農業や地域の景観、環境改善等に関わるメッセージが寄せられ講評を得ている。

1) 全国農業関係高等学校エッセイコンテストの実施

[令和3年度審査結果]: 応募総数=10点 (各校厳選)

- ◎最優秀賞 作品テーマ『牛とともに歩む』
生徒氏名: 入船 朔空 愛媛県立野村高等学校
- 優秀賞 作品テーマ『祖父からの依頼、父からの継承、私が繋いだ活動
～親子3世代で繋いだ農業と環境改善プロジェクト～』
生徒氏名: 石丸 陽翔 長崎県立諫早農業高等学校
- 優秀賞 作品テーマ『「地域活性」のための私達の取り組み』
生徒氏名: 渡邊 梓月 長崎県立諫早農業高等学校
- 佳作 作品テーマ『「いのち」を活かす』
生徒氏名: 三石 茉央 長野県立下伊那農業高等学校
- 佳作 作品テーマ『理論と実践を伴った農業技術者を目指して』
生徒氏名: 松口 歩佳 大阪府立園芸高等学校
- 佳作 作品テーマ『自分の気持ちで全てが決まる』
生徒氏名: 草野 玖実 山口県立萩高等学校奈古分校

[審査委員会]

令和3年12月8日(水) 11:00~15:30

[審査委員]

- 公益財団法人全国学校農場協会 理事長 日置 司明
- 全国高等学校農場協会 会長 葦塚 光信
- 日本農民文学会 会長 間山 三郎
- 全国高等学校農場協会 事務局長 須賀 秀次

2) 全国農業関係高等学校 農業・農村フォトコンテストの実施

[令和3年度審査結果]: 応募数=生徒56点、職員=12点、 総数=68点

〈生徒の部〉

- 優秀賞 作品テーマ『自分から見た棚田の景色』
生徒氏名: 菅原 大輝 宮城県伊具高等学校
- 優秀賞 作品テーマ『じいじには、負けない』
生徒氏名: 成川 翔 静岡県立田方農業高等学校
- 佳作 作品テーマ『麦秋の風に』
生徒氏名: 篠田 渉 埼玉県立熊谷農業高等学校
- 佳作 作品テーマ『鳥たちの刻 (とりたちのとき)』
生徒氏名: 桑原 宝 埼玉県立熊谷農業高等学校
- 佳作 作品テーマ『日 課』

生徒氏名：神田 彩羽 静岡県立田方農業高等学校

〈職員の一部〉

◎最優秀賞 作品テーマ『田舞台』

職員氏名：佐藤 明彦 静岡県立田方農業高等学校

○優秀賞 作品テーマ『学びの場』

職員氏名：池田 友利 宮城県伊具高等学校

○優秀賞 作品テーマ『あっちいったよ』

職員氏名：斎藤 勇樹 福島県立岩瀬農業高等学校

[審査委員会]

令和3年12月22日(水) 13:00~15:00

[審査委員]

- 公益財団法人全国学校農場協会 理事長 日置 司明
- 全国高等学校農場協会 会長 葦塚 光信
- 棚田学会 会長 山路 永司
- 棚田学会・写真家 理事 安井 一臣
- ・棚田学会 理事 花野 耕一
- ・全国高等学校農場協会 事務局長 須賀 秀次

4、広報活動としての機関紙並びに補助教材としての図書刊行事業

1) 「公益財団法人 全国学校農場協会新聞」の発行

当公益財団法人の事業や活動の状況、全国の農業や農業教育に関する最新情報並びに生徒・教員の特色ある取組や活動等に関する情報を収集し、全ての会員へは基より農業や農業教育へ携わる人々や研究機関、関係省庁、関係団体など広く人々へ配布した。

2) 研究集録の発行

全国の農業関係高等学校を対象として、教育内容や地域に特化した教育実践、圃場の整備、実験実習施設・設備等の教育環境並びに教育条件に関わる調査・研究の成果をまとめて研究協議会で発表した。

また、その発表要旨や支部大会、研究会・研修会で実施した内容や講演会の要旨、フォーラム、シンポジウムの内容（今年度はコロナ禍でほとんどの地区で中止）、全国の各農業高校で推進している地域連携の取り組み等を事業年度末に集約して「研究集録第59号」刊行し、教育機関・研究機関・関係省庁等へ広く配布して農業教育の理解の深化と振興・普及の一助とした。

3) 科目「総合実習」等実習教育の補助教材の研究開発と刊行

現在、農業科目「農業と環境」の実習の補助教材として発行し、活用している「農業学習ノート」「トウモロコシ」並びに「ダイコン」の活用と販路拡大を図ることができた。今後もPR活動を広く行うと共に新たな作目に対応した補助教材の

開発を検討していきたい。また、実習教育の学習成果を高めるため「実習手帳」の内容のさらなる充実を図って行きたい。

4) ホームページ充実の推進

当公益財団法人は、従来からホームページを活用して事業や活動の状況、農業や農業教育に関する研究・実践の成果、全国の農業高校での特色ある生徒・教職員の取り組みや地域連携の実践活動、関係省庁からの補助事業や研究機関からの最新関連情報等をネットを通じて広く普及するためホームページの刷新に努めてきた。今後も更に内容の充実・刷新に努め農業教育の理解の深化と振興に全力で取り組んでいきたい。

II 賃貸契約等に伴う収益事業

当公益財団法人全国学校農場協会は下記の通り、所有ビルの一部賃貸事業並びに当公益財団法人の社標マーク使用認可による収益事業を実施した。

1、家屋賃貸契約による収益事業

当公益財団法人全国学校農場協会は、所有ビルの1階部分2フロアを下記2店舗に契約賃貸し家賃収入を得た。

店 舗 (A) : 「やわらぎ」

店 舗 (B) : 「White space labo」

2、当公益財団法人 社標マークの使用料収入契約事業

当公益財団法人全国学校農場協会は、当公益財団法人の社標マークを、農場協会事業部「新和商事」が販売する実習着の左胸ポケットに刺繍装着して使用することを協会組織として承認し、その使用料として販売実習着1着につき30円の拠出契約で実している事業である。

III 会務の開催

当公益財団法人は、定款に定める目的を達成するため、組織運営並びに諸事業・諸活動を実施するために以下の会務を開催した。

1、評議員選定委員会・定時評議員会・理事会・監事会の開催

1) 評議員選定委員会：令和3年4月16日（金）13：30～

2) 定 時 評 議 員 会：令和3年5月21日（金）・**オンライン（書類決裁）**

3) 理 事 会：5月7日（金）、6月7日（月：オンライン）、
8月20日（金：オンライン）、11月4日（木）
2月4日（金）

4) 監 事 会：5月7日（金）、11月4日（木）、2月4日（金）

・監事会（会計・服務監査等）は、毎回の理事会当日の午前中に実施、また理事会がオンライン開催又は「文書決裁」の場合は改めて後日実施。

2、諸会議の開催

- 1) 研究局教育課程専門部委員会・総 会：5月20日(木：オンライン)
- 2) 第70回全国大会・研究協議会・・・全国高等学校農場協会(主催)と共催
：6月3日(木)～4日(金) =(オンライン)
- 3) 農業教育功労者審査委員会：6月24日(木)
- 4) 第58回農業教育研究協議会(主催)・・・全国高等学校農場協会と共催
：12月1日(水)～2日(木)
- 5) 全国高等学校農場協会全国支部長会：6月2日(水)及び11月30日(火)
(全国大会・研究協議会及び農業教育研究協議会の前日にそれぞれ開催)
- 6) 研究局各部会会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・随時
- 7) 公益財団法人全国学校農場協会と全国高等学校農場協会との打合会・・・随時
- 8) 総務局会議・・随時

以上、当公益財団法人全国学校農場協会は、我が国の農業教育の振興並びに質的水準の維持向上を図るため、農業教育内容や指導方法の改善、教員の研究・研修活動の奨励や支援等の事業を計画し実施してきた。しかし、本事業年度においても新型コロナウイルス感染拡大は止まらず、事業・活動・会務運営等の全てにおいて計画通りに進めることは叶わなかったが、実施した事業・活動等では、それなりの目標の達成と成果を得ることができたと考えている。次期事業年度に於いては、本事業年度の状況を十分に検証し、今後もコロナ禍対応が当分続くことを前提に事業・活動・会務等の運営を図って行きたいと考えている。

以 上

令和4年6月24日

: